

2011年7月から2028年3月31日までに もの忘れ外来に初診された患者様およびそのご家族様

当センターでは下記の臨床研究を実施しています。この研究の対象者に該当すると思われる方の中で、研究の詳細についてお知りになりたい方、またご自身の情報等をこの研究に使ってほしくないと思われた場合には、下記の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

【研究題名】

軽度認知障害（MCI）および認知症患者の状態像と家族の介護負担感における経時的変化について

MCI や各認知症における認知機能、ADL、BPSD の推移と身体機能低下がそれらに与える影響についての検討、および認知症の経過に伴う家族の介護負担の変化の関連要因についての検討

軽度認知障害（MCI）とは、認知機能の低下はあるものの、日常生活上での困りごとはほぼ無く過されている状態を指します。

【研究の目的と意義】

我が国では高齢者の増加に伴い、認知症を抱える方も増えており、2040年には800人に達することが見込まれています。そうした中で、国としても認知症発症の予防から人生の最終段階まで、適切な時期に適切な支援をし、認知症になっても安心して暮らしていけるような施策に取り組んでいます。このような認知症支援のためには、MCIの時期を含め、認知症を抱えるご本人の状態（認知機能や日常生活動作 など）やご家族の介護負担について、実態やそれらに関連する要因を把握しておくことが重要です。

特にMCIについては、その経過において正常に戻る場合もあれば認知症に進行する場合もあり、MCIの段階にとどまっていることもあります。本研究ではどのような要因がその経過と関連するか、様々な認知症のタイプを含め検討いたします。

また、MCIや認知症の経過については、これまでの研究では時間を追って調査したものはほとんど見られないため、本研究では経時的に状態像を把握していきます。さらに、聴覚障害をはじめとした身体機能も認知症予防に関連しているため、具体的にご本人の状態像にどのように関連しているのか検討します。

認知症のご本人を介護するご家族についても、認知症の経過と共にその介護負担がどのように変化するか、またその負担感に何が影響しているかを検討します。

研究 - 参考書式 1

日常生活動作とは、食事、排泄、入浴、行為などの基本的なものから、金銭管理、服薬管理、買い物といったたより複雑な行為があります。

【研究の対象】

2011年7月から2028年3月31日までの間に、もの忘れ外来に初診した患者様およびそのご家族。

【研究の方法】

初診時にMCIと診断された方の経過を追い、MCIのままであるか、正常のレベルに戻るのか、認知症に進行するのか、それぞれの割合を算出します。また、認知症に進行した場合、認知症のタイプ別に、認知症発症に関連する要因を検討いたします。さらに、正常、MCIを含め、認知症の認知機能のほか、日常生活動作や精神症状などの状態像について経過に伴う変化を、またそれらの変化に与える要因を検討します。認知症の介護をしているご家族の介護負担についても同様に、認知症の経過に伴う介護負担の変化やそれに関連する要因を検討いたします。

【研究に使用する試料・情報】

対象となる患者様の診療録や問診票から、臨床所見（年齢、性別、診断名、病歴、家族構成、重症度（臨床病期）、認知機能検査結果、服薬状況、身体的・精神的・社会的状況に関するデータ）を利用いたします。

また、患者様のご家族については、年齢、性別、ご本人との続き柄、居住形態、介護状況、問診票に回答していただいた介護負担の程度についてのデータを利用いたします。

【研究組織】

研究統括：岡本一枝

共同研究者：古田光、扇澤史子、今村陽子、高岡陽子、青島希、植田那月、加藤真衣、大森佑貴、松井仁美、井藤佳恵、粟田圭一

【資料の保管と他の研究への利用について】

この研究では、研究用IDを使って患者さんの情報を管理します。患者さんの個人情報と研究用IDを結びつける情報は当院内で厳重に管理し、院外に持ち出すことはありません。

本研究の実施、および成果を国内外の学会や論文で発表する場合は、データは個人情報とは完全に分離した形で扱い、結果も平均値として示されますので、患者様やご家族の個人情報が漏れる心配はありません。他の研究への利用もあり

研究 - 参考書式 1

ません。この研究のために使われる患者様・ご家族の情報は全て、本研究終了後に廃棄いたします。

【お問い合わせ先】

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター 精神科 岡本一枝

連絡先：03-3964-1141 （平日 9：00～17：00）